

|             |  |         |     |
|-------------|--|---------|-----|
| ふりがな<br>氏 名 | みやま みどり<br>三山 緑  | 職 名     | 准教授 |
| 取 得 学 位     | 修士(教育学)  | 学会での受賞歴 |     |
| 主な担当科目      | 教育原理、教育制度論、教育課程論                                       |         |     |
| 所 属 学 会     | 中国四国教育学会、西日本教育行政学会、日本教育行政学会、日本教育制度学会、日本教育経営学会、日本教師教育学会 |         |     |

◆ 教育業績

| 事 項                 | 実 施<br>年月(日)    | 概 要   |
|---------------------|-----------------|---|
| 教育実習報告会の指導          | 平成16年9月～平成30年9月 | 教育実習事前・事後指導を担当し、教育実習を終えた学生の報告会実施を指導した。教育実習2～3週間の記録をもとに2枚の用紙を書かせ、その内容をもとに実習生自ら発表内容を吟味検討させた。また、実習生が提出した発表記録を簡易製本し、実習生だけでなく学内で広く頒布して教育実習の成果に対する理解を促した。 |
| 模擬授業評価表の開発          | 平成20年4月～平成31年3月 | 教育実習校の実習指導担当教諭を対象に行ったアンケート調査の結果をもとに技量項目を策定し、模擬授業の評価表に反映させるとともに、継続的に改善した。  |
| 学習支援システムを活用した双方向的授業 | 平成26年4月～平成31年3月 | 主に講義科目において、学習支援システムを通じて学習者から意見・回答を得るようにし、その内容を総括して次時の講義時の導入に活用することで学習者の興味関心を高めてきた。また回答のクオリティに応じて評価に反映させることで、多面的な評価となるよう工夫した。                        |

◆ 研究業績

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・<br>作品・演目などの名称                            | 単<br>・<br>共 | 発 行・<br>発 表<br>年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号<br>/ 学会・展覧会・演奏<br>会の名称(会場名) | 備 考   |
|-----|---|-------------|----------------------|---|---|
| 著 書 | 1. やさしく学ぶ教育原理(広島経済大学)<br>< ISBN-13 : 978-4623083572 > | 共           | 平成30年5月              | ミネルヴァ書房                                 | 編者:佐々木司・熊井奨太<br>著者:佐々木司、山口裕毅、鈴木宏、田中直美、鈴木和正、卜部匡司、熊井将太、住岡敏弘、藤本駿、三山緑(計10名)<br>179頁中、第10章「教師の職務と専門性」(pp.152-166)を執筆 |
| 論 文 | 1. 西日本の各県教育委員会による学校安全行政の現状と課題                         | 共           | 平成30年2月              | 『皇學館大学教育学部研究報告集』第10号                    | 著者:市田敏之、黒木貴人、小早川倫美、藤村祐子、藤本駿、三山緑、滝沢潤、住岡敏弘(計8名)<br>40頁中、「3. 学校安全行政における教育委員会の法的責任」(pp. 6- 10)を執筆。                  |

| 区分           | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称                                  | 単・共 | 発行・発表年月(日)     | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名) | 備考  |
|--------------|---|-----|----------------|----------------------------------|---|
| 論文           | 2. 教職課程履修学生の「学習指導技量」評価のためのルーブリック開発研究—10 の評定項目を基にした作成試案— | 共   | 平成30年6月        | 『広島経済大学研究論集』第41巻第1号              | 著者:三山緑、田中泉(計2名)<br>11頁中、「はじめに」、「研究の目的と方法」、「考察—今後の展望と課題—」(pp. 67- 69. pp. 74- 75)を執筆。  |
|              | 3. 西日本の各県の教育振興基本計画における「学校と地域との連携・協働」に関する方針にみられる特質と課題    | 共   | 平成31年3月        | 『皇學館大学教育学部学術研究論集』第1号             | 著者:市田敏之、住岡敏弘、滝沢潤、三山緑、藤村祐子、藤本駿、小早川倫美、黒木貴人(計8名)<br>22頁中、「3.各県の教育振興基本計画における学校と地域との連携・協働に関する方向 ④広島県」(pp.10- 12)を執筆。                       |
|              | 4. イギリスにおける大学附設学校の役割—留学生に対する「経路プログラム」を通じた大学正規課程準備教育—    | 単   | 令和3年5月<br>刊行予定 | 西日本教育行政学会『教育行政学研究』第41号           | 査読論文  |
| 学会発表         | 1.教職課程履修学生の「学習指導技量」評価のためのルーブリック開発研究—10 の評定項目を基にした作成試案—  | 単   | 平成 29 年 11 月   | 中国四国教育学会第 69 回大会 (広島女学院大学)       | それまでの「学習指導技量」評定項目の背後にある3因子を評価規準に、「4.教職実践演習終了時」「3.教育実習終了時」「2.教育実習事前指導終了時」「1.教科の指導法終了時」「0.教科の指導法開始時」を評価基準として枠組みを設定し、ルーブリックを作成した過程を報告した。 |
| 学会発表         | 2.イギリスの EU 離脱が大学経営に及ぼす影響—留学経験を通じて得た気づき—                 | 単   | 令和2年12月        | 西日本教育行政学会第 42 回大会、島根大学 (オンライン開催) | 令和元年6月から12月にかけて、イギリスに語学留学に行った際の経験、感じたことを起点に推論など展開した。コロナ禍でのオンライン開催となった。  |
| その他<br>(報告書) | 1.今後の教員養成と大学  | 共   | 平成30年5月        | 西日本教育行政学会『教育行政学研究』第38号           | 再課程認定を見据え、教員養成改革動向について、学会シンポジウムを企画した。その際の内容をまとめたものである。  |
|              | 2.現行教職課程認定の実態と再課程認定による影響                                | 単   | 令和2年3月         | 中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会『会報』第40号   | 再課程認定前後で、同連盟に所属する大学がどのように対応したかについて、アンケートを取りつつまとめた内容を、定期総会、研究会で発表した。   |